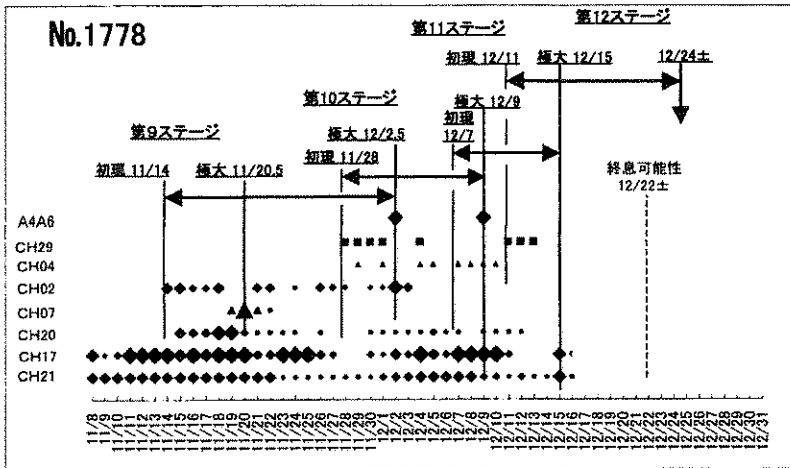


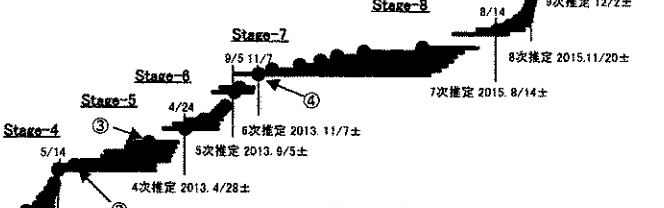
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 推定通り12月15日にピーク観測 第12ステージ確認 現状12月24日±の可能性
現在継続出現前兆=CH21 (微弱)のみ・CH21特異が12月22日に完全終息すれば12月24日±発生の可能性濃厚



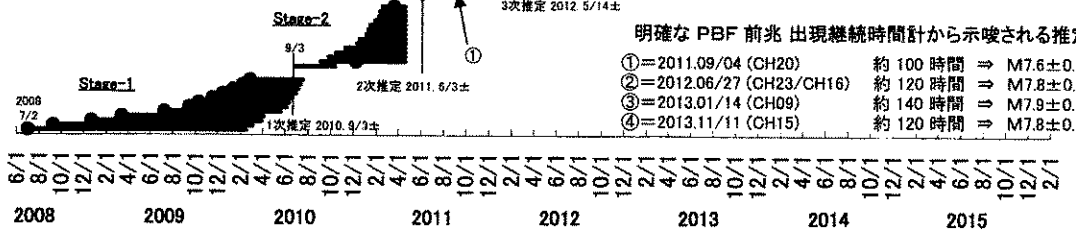
左図はNo.1778前兆の最終局面認識の第09ステージ～第12ステージ (現在) の前兆出現状況図。下図はNo.1778前兆の2008年07月から現在までの12ステージに別れた前兆群の出現形態を示す。第01～第04ステージ等初期のステージには各ステージに12個の極大が出現した。後半は06個±の極大となり、第09ステージ以降は、極大はひとつとなっている。
第08ステージまでは、前兆期間が数ヶ月だったが、第09ステージ以降は前兆期間が数十日と短くなっている。



No.1778 長期継続前兆群出現形態

明確な PBF 前兆 出現継続時間計から示唆される推定規模

①=2011.09/04 (CH20)	約 100 時間 ⇒ M7.6±0.5 相当
②=2012.06/27 (CH23/CH16)	約 120 時間 ⇒ M7.8±0.5 相当
③=2013.01/14 (CH09)	約 140 時間 ⇒ M7.9±0.5 相当
④=2013.11/11 (CH15)	約 120 時間 ⇒ M7.8±0.5 相当



No.1778前兆に関する前回の報告では、12月15日±にピークが出現し、第12ステージに移行する可能性を記しました。推定通り、12月15日にCH17に糸状特異+CH21も糸状特異が出現しピークを形成！
本日16日は朝CH17にほんの短時間糸状特異が出現したのみ、CH21の微弱特異が継続中。初現12月11日認識が正しければ12月22日±に前兆終息が観測される可能性が示唆されます。これを確認することが重要。12月22日に全前兆が終息した場合は、本ステージが最終ステージで、本ステージが示す12月24日±が対応地震発生日である可能性が示唆されます。12月22日以前に終息の場合は24日±推定は変わりませんが、22日19時以降に終息の場合は12月25日の可能性。今後新たな前兆が出現しない限り、現在唯一継続のCH21前兆が12月22日に終息すれば、当該第12ステージが最終ステージである

ことが確認できます。
2008年07月より前兆が出現しだし、最大時期では、30以上の観測装置に前兆が出現しました。現在、それがCH21の微弱な特異状態のみとなりました。現在まで、推定通りの変化を示しているため、前兆の解析、認識は正しい可能性があります。但し過去例の無い特殊な形態のため、前兆完全終息を確認することが重要です。続報にご注意下さい。

- ◆推定領域：右図 太線領域内=大枠推定領域 斜線領域=可能性が考え易い推定領域 ※影響局誤認の場合は東北領域 (可能性低い見解)
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：12月24日 (or 25日) (誤差=12月24日±1) ※但し12月22日に前兆終息確認が条件 ※現在の認識からの予測と異なるデータが録れた場合は、再検討後、続報で報告させて戴きます。
- ◇推定地震種：震源が浅い日本列島の地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前09時±1 (又は午後06時±3)



※ステージ12が最終ステージであった場合の仮定ですが、No.1778前兆群の前半ステージの極大数=12が、全体のステージ数を示していた可能性も否定できません。観測例がひとつなので、あくまでも推論ですが、今後同様な観測例で確認する必要があります。極大数=12の場合 ↓ 全体ステージ数=12 となる可能性